

令和3年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

令和2年11月12日

上場会社名 中日本興業株式会社 上場取引所 名
 コード番号 9643 URL http://www.nakanihonkogyo.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)服部 徹
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員 感動創造支援本部副本部長 (氏名)加藤 康章 (TEL) (052)551-0274
 四半期報告書提出予定日 令和2年11月13日 配当支払開始予定日 令和2年12月2日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和3年3月期第2四半期の業績（令和2年4月1日～令和2年9月30日）

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
3年3月期第2四半期	596	△73.1	△305	—	△255	—	△260	—
2年3月期第2四半期	2,220	15.0	218	93.1	230	91.4	156	91.0

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
3年3月期第2四半期	△490.16	—
2年3月期第2四半期	295.08	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
3年3月期第2四半期	4,279	3,548	82.9
2年3月期	4,715	3,782	80.2

(参考) 自己資本 3年3月期第2四半期 3,548百万円 2年3月期 3,782百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
3年3月期	—	20.00	—	—	—
3年3月期(予想)	—	—	—	30.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 令和3年3月期の業績予想（令和2年4月1日～令和3年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,100	△44.9	△390	—	△310	—	△320	—	△602.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	3年3月期2Q	540,000株	2年3月期	540,000株
② 期末自己株式数	3年3月期2Q	9,226株	2年3月期	9,226株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	3年3月期2Q	530,774株	2年3月期2Q	530,856株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8
(追加情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、個人消費や企業活動に甚大な影響を与え、人々の生活様式については余儀なく変化を強いられました。「緊急事態宣言」の解除後は、経済に持ち直しの動きがみられたものの、同感染症拡大の収束は見通せず先行き不透明な状況で推移しました。

当社では、同感染症が拡大し始めた2月末頃より映画館の来場者が減少し始め、さらに、映画公開の中止や延期、政府から発出された「緊急事態宣言」により大部分の事業所を臨時休業するなど、業績に深刻な影響を及ぼしました。その後、「緊急事態宣言」が解除となり、マスクの着用、アルコール消毒液の設置、サーモグラフィーによるお客様の体温の確認、施設内の換気など一層の感染防止対策を施しながら営業を再開いたしました。しかしながら、外出自粛などのマインドが依然継続しており、感染拡大前の水準には遠く及ばない状況でした。

この結果、売上高は5億96百万円(前年同期比73.1%減)、営業損失は3億5百万円(前年同期は営業利益2億18百万円)、経常損失は2億55百万円(前年同期は経常利益2億30百万円)、四半期純損失は2億60百万円(前年同期は四半期純利益1億56百万円)となりました。

以下、事業別の概況をご報告申し上げます。

【シネマ事業】

当事業では、新作公開が少なく旧作を上映するなど番組編成にも影響が及び、その後4月11日から5月21日までの41日間の休業を余儀なくされるなど、未曾有の状況でした。営業再開後は政府、自治体および関係団体からのガイドラインに従い、座席間隔を空け、半分の座席にて営業をしました。邦画を中心に新作映画も公開されるようになりましたが、全体の興行としては大変厳しい成績でした。また、近年着実に売り上げを伸ばしていましたライブビューイングは、公開すべき作品も無い状態でした。

当上半期の主な上映作品としまして、邦画では、7月公開「今日から俺は!! 劇場版」、「コンフィデンスマンJP プリンセス編」、8月公開の「糸」、「事故物件 怖い間取り」、洋画では、6月公開「ドクター・ドリトル」、「ランボー ラスト・ブラッド」、9月公開の「ミッドウェー」、「TENET テネット」、アニメでは、6月公開「千と千尋の神隠し」(再映)、8月公開「劇場版『Fate/stay night[Heaven's Feel]』Ⅲ.spring song」、「映画ドラえもん のび太の新恐竜」、9月公開の「劇場版 ヴァイオレット・エヴァーガーデン」、ODS(映画以外のデジタルコンテンツ)では、9月公開の「BREAK THE SILENCE : THE MOVIE」、「僕たちの嘘と真実 Documentary of 樺坂46」などの番組を編成いたしました。

また、飲食部門の名古屋市千種区の「覚王山カフェ Ji.Coo.」、名古屋市中村区の「LA BOBINE ガレットカフェ」では、食材にこだわったメニューを開発するとともに、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に図りながら、お客様に満足いただける店舗創りに努めてまいりました。

この結果、当事業では売上高は5億22百万円(前年同期比74.7%減)、セグメント損失は2億70百万円(前年同期はセグメント利益2億10百万円)となりました。

【アド事業】

当事業は、同感染症拡大に伴う映画関連の業務・イベント等の中止が重なったことにより、シネマ事業同様に影響を大きく受けました。しかしながら、コインパーキング等のサイン工事につきましては、影響は少なく堅調に推移いたしました。

この結果、当事業では売上高は74百万円(前年同期比53.3%減)、セグメント損失は35百万円(前年同期はセグメント利益8百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期会計期間末の総資産は42億79百万円となり、前事業年度末に比べ4億36百万円の減少となりました。主な要因は、流動資産の減少4億61百万円となっております。

負債合計は、7億30百万円となり、前事業年度末に比べ2億2百万円の減少となりました。主な要因は、流動負債の減少1億65百万円となっております。

純資産は、35億48百万円となり、前事業年度末に比べ2億34百万円の減少となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和3年3月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症の収束時期の見通しが立たない状況であったため、合理的に算定することが困難であることから未定としておりましたが、当第2四半期累計期間の業績動向等を踏まえ、現時点で入手しております将来予想情報等に基づき算定いたしました。

尚、業績予想は現時点で入手可能な情報に基づいて算定したものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

詳細につきましては、本日別途開示する「通期業績予想の公表および剰余金の配当（中間配当）に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (令和2年3月31日)	当第2四半期会計期間 (令和2年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,067,524	570,190
受取手形及び売掛金	106,021	132,999
有価証券	300,000	300,000
商品及び製品	5,987	6,356
前払費用	29,961	33,272
預け金	25,951	16,985
その他	23,564	37,875
流動資産合計	1,559,011	1,097,679
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,122,700	1,071,532
構築物（純額）	1,363	1,214
機械装置及び運搬具（純額）	85,170	72,105
工具、器具及び備品（純額）	139,969	115,512
土地	695,913	695,913
有形固定資産合計	2,045,117	1,956,278
無形固定資産		
電話加入権	1,147	1,147
ソフトウェア	25,783	19,961
その他	280	258
無形固定資産合計	27,211	21,367
投資その他の資産		
投資有価証券	440,229	500,120
関係会社株式	10,000	10,000
差入保証金	573,144	572,738
長期前払費用	36,918	35,789
繰延税金資産	24,112	85,227
投資その他の資産合計	1,084,404	1,203,875
固定資産合計	3,156,734	3,181,521
資産合計	4,715,745	4,279,200

(単位：千円)

	前事業年度 (令和2年3月31日)	当第2四半期会計期間 (令和2年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	263,951	166,201
リース債務	52,289	45,769
未払金	4,724	4,135
未払法人税等	18,463	5,931
未払消費税等	726	-
未払費用	104,949	63,560
従業員預り金	9,359	3,924
賞与引当金	17,860	17,750
その他	44,166	43,551
流動負債合計	516,490	350,823
固定負債		
リース債務	98,456	77,286
退職給付引当金	71,232	66,675
長期未払金	28,600	25,200
資産除去債務	84,172	84,877
受入保証金	133,908	125,712
固定負債合計	416,368	379,752
負債合計	932,859	730,575
純資産の部		
株主資本		
資本金	270,000	270,000
資本剰余金		
資本準備金	13	13
資本剰余金合計	13	13
利益剰余金		
利益準備金	67,500	67,500
その他利益剰余金		
配当準備積立金	218,555	202,632
別途積立金	2,380,000	2,380,000
繰越利益剰余金	809,350	549,185
利益剰余金合計	3,475,406	3,199,317
自己株式	△70,406	△70,406
株主資本合計	3,675,013	3,398,924
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	107,872	149,700
評価・換算差額等合計	107,872	149,700
純資産合計	3,782,885	3,548,625
負債純資産合計	4,715,745	4,279,200

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自令和2年4月1日 至令和2年9月30日)
売上高	2,220,902	596,882
売上原価	1,157,246	292,200
売上総利益	1,063,656	304,681
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	31,312	12,301
人件費	279,520	222,869
賞与引当金繰入額	16,975	17,750
退職給付費用	3,471	4,155
減価償却費	95,908	71,907
地代家賃	203,174	149,785
水道光熱費	39,690	24,984
修繕費	3,165	7,694
その他	171,831	98,886
販売費及び一般管理費合計	845,050	610,335
営業利益又は営業損失(△)	218,606	△305,654
営業外収益		
受取利息	1,721	1,668
受取配当金	3,884	3,967
協賛金収入	6,240	5,600
助成金収入	-	39,482
その他	1,057	733
営業外収益合計	12,902	51,451
営業外費用		
その他	711	1,142
営業外費用合計	711	1,142
経常利益又は経常損失(△)	230,797	△255,345
特別損失		
臨時休業等による損失	-	83,716
特別損失合計	-	83,716
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	230,797	△339,061
法人税等	74,152	△78,895
四半期純利益又は四半期純損失(△)	156,644	△260,165

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期累計期間(自 平成31年4月1日 至 令和元年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期損益計算書計上額
	シネマ	アド	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,061,434	159,467	2,220,902	—	2,220,902
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,061,434	159,467	2,220,902	—	2,220,902
セグメント利益	210,423	8,182	218,606	—	218,606

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自 令和2年4月1日 至 令和2年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期損益計算書計上額
	シネマ	アド	計		
売上高					
外部顧客への売上高	522,433	74,449	596,882	—	596,882
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	522,433	74,449	596,882	—	596,882
セグメント損失(△)	△270,058	△35,595	△305,654	—	△305,654

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積りについて)

新型コロナウイルス感染症の収束時期等を正確に予測することは困難な状況ですが、本感染症の影響については、現時点で入手可能な情報や予測等に基づき、令和3年3月期中は一定程度残るものと仮定し、繰延税金資産の回収可能性等の会計上の見積りを行っています。

なお、新型コロナウイルス感染症による経済活動への影響は不確実性が高いため、今後の実際の推移がこの仮定と乖離する場合には、当社の経営成績及び財務状態に影響を与える可能性があります。